

情報連絡員報告総括表（令和4年12月分）

三重県中小企業団体中央会  
 連絡員総数 40名  
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況						
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製 造 業	食料品	2	2		2	2		2	2		1	3		1	2	1		3	1		4		1	3		1	2	1				
	繊維工業		2	1	1	2		2	1			3			3			3		1	2			3			2	1				
	木材・木製品			1		1				1			1			1		1				1		1				1				
	紙・紙加工品			2	1	1		2			2				1	1		2				2		2			1	1				
	印刷		1			1		1				1				1		1			1			1			1					
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品		2	1		3		2	1			1	2		1	2		2	1		3			3			2	1				
	鉄鋼・金属			1			1		1			1				1		1				1		1				1				
	一般機器	1	2		3			3				3				3		2	1		2	1		2	1		2	1				
	電気機器		1			1			1			1			1			1		1				1			1					
	輸送機器	1					1		1			1				1		1		1				1		1						
その他																																
小計	4	10	6	7	11	2	12	7	1	3	14	3	1	8	11		17	3	3	12	5	1	18	1	2	11	7					
非 製 造 業	卸売業		2			2		2				2			1	1		2		X					2			1	1			
	小売業	2	2	2	1	4	1	3	3			4	2		3	3		3	3						6			4	2			
	商店街		1				1	1					1		1				1						1			1				
	サービス業		4	1	X	X	X	1	4			5			3	2		4	1						4	1		3	2			
	建設業		2	2								3	1		3	1		1	3			2	2					4			1	3
	運輸業		1									1			1			1				1						1			1	
	その他		1									1			1			1				1						1			1	
小計	2	13	5	1	6	2	7	12	1		16	4		11	9		13	7					19	1		12	8					
合計	6	23	11	8	17	4	19	19	2	3	30	7	1	19	20		30	10	3	12	5	1	37	2	2	23	15					

## 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和3年12月～令和4年12月)

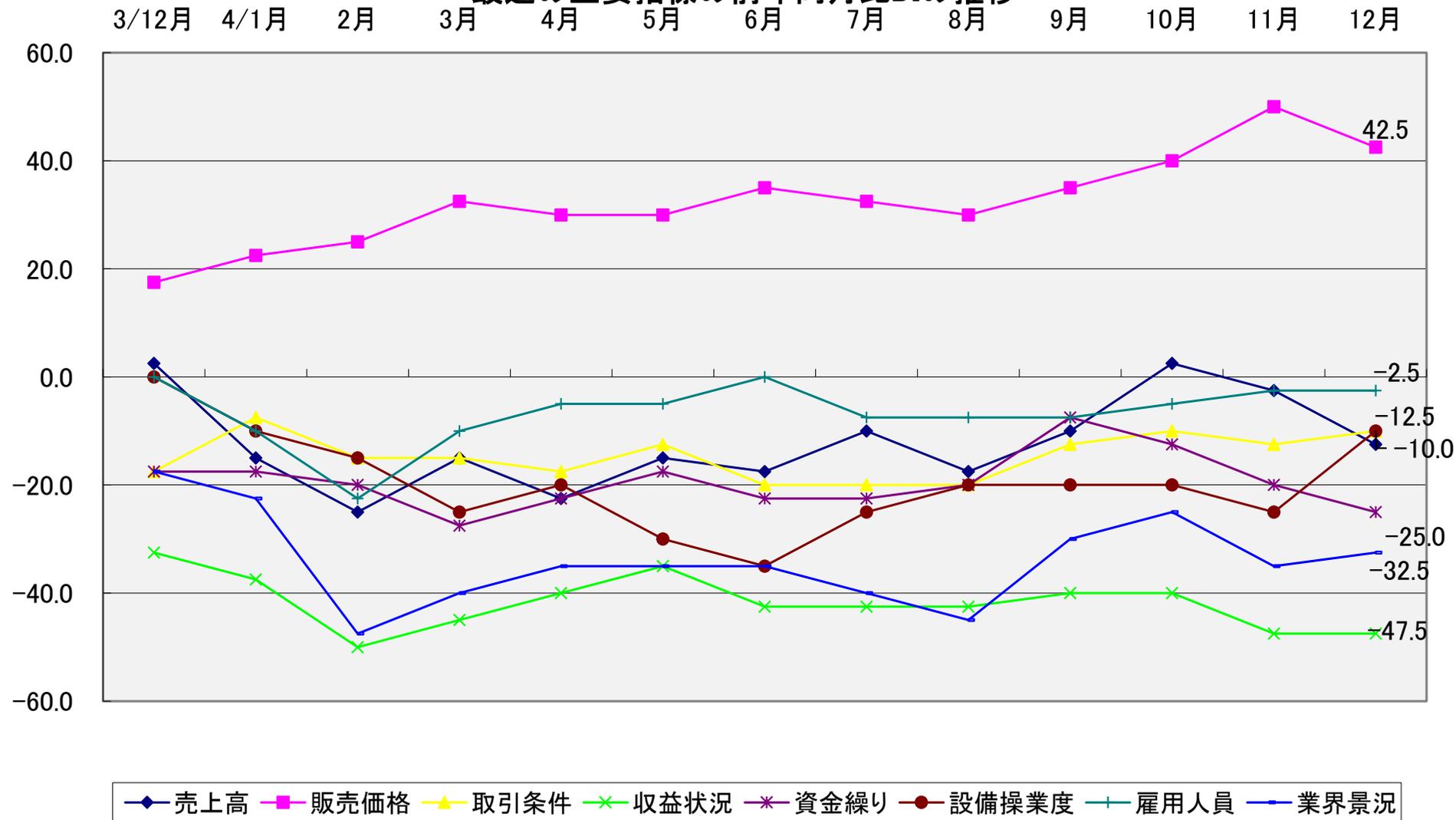
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	3/12月	4/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	増減
売上高	2.5	-15.0	-25.0	-15.0	-22.5	-15.0	-17.5	-10.0	-17.5	-10.0	2.5	-2.5	-12.5	-10.0
販売価格	17.5	22.5	25.0	32.5	30.0	30.0	35.0	32.5	30.0	35.0	40.0	50.0	42.5	-7.5
取引条件	-17.5	-7.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-20.0	-20.0	-20.0	-12.5	-10.0	-12.5	-10.0	2.5
収益状況	-32.5	-37.5	-50.0	-45.0	-40.0	-35.0	-42.5	-42.5	-42.5	-40.0	-40.0	-47.5	-47.5	0.0
資金繰り	-17.5	-17.5	-20.0	-27.5	-22.5	-17.5	-22.5	-22.5	-20.0	-7.5	-12.5	-20.0	-25.0	-5.0
設備操業度	0.0	-10.0	-15.0	-25.0	-20.0	-30.0	-35.0	-25.0	-20.0	-20.0	-20.0	-25.0	-10.0	15.0
雇用人員	0.0	-10.0	-22.5	-10.0	-5.0	-5.0	0.0	-7.5	-7.5	-7.5	-5.0	-2.5	-2.5	0.0
業界景況	-17.5	-22.5	-47.5	-40.0	-35.0	-35.0	-35.0	-40.0	-45.0	-30.0	-25.0	-35.0	-32.5	2.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする  
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和4年12月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）		
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足は続いている。今年は8月に雨が多く葉菜類を中心に初期生育が遅れていたが、その後の天候により順調に生育しており、例年並みの収穫が得られ、ほぼ例年並みの漬け込みが行われている。また、販売状況においても、コロナウィルス規制の緩和により、旅行者が増加し、お土産物の需要がかなり回復してきた。一方でウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ている。全国漬物協同組合主催の評議委員会が2月14日に仙台市で開催される。コロナのために会議は欠席するが、要望や意見を提出した。		
	醤油味噌	年末を控え組合員各社の生産は活発となり、組合からの原材料供給も増加した。ただし、末端小売価格の上昇により、消費者の買い控えが懸念材料である。12月中旬以降、為替が130円半ばにまで上昇したことによる原材料価格への影響がどのように出るか注視していかなければならない。また、設備の老朽化や新商品の生産のため工場の増改築、設備更新を行う組合員もある。年明けに大手しょうゆメーカーは業務用・加工用を中心に再値上げを行う。		
	製麺	コロナの第8波到来で、飲食店も厳しい状況が続いている。伊勢神宮のおかげ横丁は、昨年と比べてかなり来客は増えている。組合員においては、忙しい中、三重県産小麦の商品開発、来年に向けて展示会等の出店に協力してもらい、PR活動に取り組んでもらっている。令和5年は、積極的に新たな取組みを行っていく。		
繊維工業	テントシート	先行きの不透明感がある中で、売上が減少してきている事業所も多い。		
木材・木製品	木材	ウッドショック、ウクライナショック、円安の影響は薄れつつあり、秋以降、前月比、前年同月比とも弱含み傾向である。		
	木材チップ	当組合員は林業、木材加工業、製材、木材問屋等で構成されている。従来通りの業務内容では経営が厳しい事業所もあり、新木材製品の開発や山林や自然を生かした体験型施設の運営など新しい試みや工夫を凝らしている事業所が増えてきている。		
製 造 業	紙・紙加工品	古紙	12月の仕入量：段ボール・約95±3%、新聞、チラシ・約91±5%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約89±4%と見ます。ホワイトクリスマスで桑名市から名古屋市方面に雪が積もったが、比較的早く雪は融け助かったが、10月からの商品等の値上げのせいか、古紙の発生は良くなかった。旅行や消費増の事業予算も限定的な効果に思える。買い置きされたと思われる生活必需品は、暖冬で消費も落込み、紙の消費と古紙の集荷も少なく前年割れが多いようである。箱や新聞・雑誌の値上げは難しく、原紙値上げと共にすべての商品やエネルギー等の負担がきつい旨の話をよく聞く。日銀の発表により、為替レートは130円前半の円安で、昨年の年始の約115円から比べると15円ほど円安であるが、国際情勢によるアジア圏の消費減があり、国内国外の製品原紙は大きく在庫積み増しとなっているようである。3月末までに賃金引上げの状況をつくり、4月以降までに消費者負担の説明がなされれば製品値上げも可能になるかと思う。法制化と増税等によりミサイル等から国民の命を守る事は進んでいるようであるが、今でも古紙持ち去り行為撲滅の法制化は暗礁に乗り上げており、残念な状況である。万引きが窃盗の法律があっても万引きは無くならず、ましてや法律や罰則がない中で古紙持ち去り行為禁止措置は不可能に近くなるように思う。年末年始のゴミ置き場行為やゴミの回収容器内への不法投棄が増えた。こうした行為は非常に悪質である。	
		印刷	印刷	行政関係等より、次年度の予算要求用に参考見積を依頼されることがあるが、印刷資材はこの一年間に何度も値上げがあり想定できない。その結果、今後の入札が不調になることが危惧される。
		窯業・土石製品	伊賀焼	組合員は注文、制作数等は徐々に増えてきて、忙しくなってきたように感じる。しかしながら、先行きの見えない原材料費の値上げ、ガス、電気、薪等窯の焼成に使用する燃料費の値上げにも頭を悩ませている。どのタイミングで価格に反映させればよいか迷っている。
		鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は11月とほぼ同様であるが、自動車関連部品は若干の減少、建築関連部品及びガス関連部品は横ばいの状態であり、半導体関連は若干の増加傾向であった。来年始めは少し減産傾向にあるといわれているが、1月までは現状維持の傾向である。原材料の高騰、エネルギー価格の高騰（ガス、重油、電力料）が続き、それによる収益の圧迫で経営面では厳しい状況が続いている。
			四日市	実状、業況は円安、半導体不足や紛争の長期化による仕入価格の上昇、自動車関連は未だ低調のため企業経営に響いている。販売価格への転嫁が一部進んでいるが、仕入れ価格の転嫁のみで業績にはつながらず設備操業が上がらないため、上向く兆しは見受けられない。

報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和4年12月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	一般機器	津市	売上は増加となったが、材料価格の高騰による増加であり、高騰以前の価格に換算すると、実質はマイナスである。また、材料高騰による単価改定はできるものの、光熱費、燃料費、運賃等に関する値上げはなかなか難しく、収益は悪化している。値上げに関して、中小企業においても価格転嫁が反映できるような仕組み作りを国が取組んでほしいものである。
		伊勢	半導体不足は依然として続いており、自動車生産、設備関連の仕事は減少傾向となっている。建設や土木については好調が継続しているが、輸入部材が入荷せず、仕事がない事業所が出てきている。これはウッドショックも要因であると考えられる。
	電気機器	鳥羽	12月は中旬に入ってから、全体的に良くなり始めている。電機産業、機器、半導体共に下期以前に比べれば、良い傾向である。
	輸送機器	鈴鹿	鈴鹿市内の大手自動車メーカーでは、休日稼働を抱えているバックオーダーの挽回に努めており、下請け各社も繁忙な状態が続いている。一部の下請け企業では人員不足のため、メーカーからのオーダーに応える体制をとるために過剰な時間外勤務に陥っている。
非 製 造 業	小売業	青果	野菜前半：入荷は安定しており、安値が続いている。特に大根、白菜、キャベツ、ブロッコリーがお買い得である。また、ミニトマトも寒暖差が出てきたため、糖度が上がり美味しくて安い。しかし、後半にかけては、小松菜、ほうれん草等は冷え込みで生育が遅れ値上がりしそうである。 野菜後半：安値が続いていたが、寒波と需要が増えて値上がりしている。年末にはきゅうり、レタス、白ねぎ、白菜、生椎茸、エノキ茸等、多くの野菜が高値になった。なお、レンコンは平年並みである。 果物前半：みかんは県内産の早生品種を中心に荷動きが良く、例年より安価傾向である。いちごは入荷も順調で価格もお手頃でお買い得である。りんごは、長野産「サンフジ」は味も良く安い。熊本産の「アールスメロン」は贈答用の需要が高まり、値上がりしている。 果物後半：みかんは年末需要が増え、値上がりしている。いちごはクリスマス、年末の需要が増え、前半に比べ50%以上値上がりしてきた。柿は「富有柿」が終盤になり、値上がりしている。長野産の干し柿「市田柿」は例年より大玉で順調に入荷している。
		自転車	ロシアのウクライナ侵攻で国際協調がカギを握る中、国内物価は生活必需品の値上げが著しく、当業界においても高額な商品が多くなったこともあり、需要全体は依然として弱いものとなっている。例年、メーカーが12月に実施する「冬の大輪祭」も自転車部品の供給が不安定な状況を考慮して中止となった。しかしながら、そのような中でも各ショップは春需に向かって様々な商品を展示する等準備している。現在、一部メーカーの部品リコールが発生し、ユーザーとの連絡調整が混乱している店も出ているようである。
		電器	新型コロナウイルスの感染が、年末年始に向けて増加傾向にある状況であるが、人の流れや動きは全国旅行支援制度が後押しして観光含めて多くなってきているようである。業界の動きは、以前のように発注から即納品とまではいかないが、潤沢に各商品入荷するようになってきたように思う。消費者の購入意欲も少しずつ戻ってきたようで、省エネ家電推進キャンペーンが始まった事も後押しとなり、売上も戻ってきたように思われる。年明けからの動向はコロナ関連と気象状況で変わるようになるが、仕入先とも連携を図って売上促進に努めていきたいと思う。
		石油	資源エネルギー庁は12月21日、2021年12月より実施している燃料油価格激変緩和対策事業について、2023年1月以降も継続していくことと公表した。また、継続するにあたり、制度の趣旨や補助金算出方法はこれまでと同様であるが、一部の内容変更を行った。具体的には現在の補助金上限金額35円が、2023年1月より5月まで、毎月2円ずつ減少されることとなる。一方で、補助上限を超過した場合、超過額の2分の1を支援する制度は維持される。今般の変更により、補助上限額は1月・33円、2月・31円、3月・29円、4月・27円、5月・25円となる。1月は12日の卸売り価格改定への支給分から適用、以降は毎月最初の改定への支給分から適用されることとなる。
		スポーツ	気温が低い日が続く、冬物のウェアが例年になく売れている。また、伊勢市だけかもしれないが、観光客が随分増えているようである。街中、他府県ナンバーの車でいっぱいである。やっとな観光業界も回復が見込まれホッとしているようである。ただ、未だコロナが終息せず、増加しているようで、心配である。
	商店街	熊野市	感染拡大が広がる中ではあるが、旅行者やスポーツ集客等の団体が訪れており、昨年よりは活気のある年末となった。また商店街で今年最後の朝市イベントも開催された。今回は「熊野本まぐろフェス」と銘打ち、マグロの握り寿司や短冊なども販売され、多くの人で賑わいを見せた。ただ食品をはじめ原材料の高騰はまだまだ続いており、来年以降の消費動向にも歯止めをかける状況かと感じる。

報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和4年12月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
サービス業	旅館	今年も昨年と同様、年末年始は割引がなくても多くの来客に利用していただいていたが、年末直前の1週間は忘年会等の日帰り客は皆無であり、閑散としていた。12月全体では昨年と同じ位、コロナ前の70%~80%位迄戻っていたが、電力、石油等の高騰と言われている程、提供商品が多いため、宿泊料金は値上がりしているようであるが、物価の高騰には追いつかない。また、業界全体の人手不足も深刻である。
	警備	例年のように年末に向けての工事受注が多く、昨年同様の売上高となった。ただし、警備員不足は続いている。
建設業	内装工事業	12月は僅かながら、前年同月比でマイナスとなった。コロナの影響、材料費の高騰、物価高から景気動向が不安定で、年明けから年度末まで今後の予測は不透明である。
	水道工事業（亀山）	資材の入手、仕入価格上昇等で先行きの不安感がある。受注状況については、亀山市の漏水修繕は毎月20~30件あるが、民間についても水道、設備工事の仕事はあるものの、資材納期が不透明であるため、業務工程、仕事の段取りは組みにくい状態である。
運輸業	トラック	軽油価格は先月に比べ、約1円程度の上昇で依然高止まりの状態が続いている。電子デバイス部門については、世界的な個人消費の落ち込みを背景としたスマホ向け等の半導体の需要減を受け、キオクシアが生産調整を行ったことから、輸送についても減少傾向で推移した。自動車関係については、トヨタ自動車、ホンダ技研が増産傾向に転じたことから関連する輸送も増加に転じた。スーパー、小売については、年末需要の影響もあり増加したため、関連する輸送も増加した。住宅関連については、住宅着工戸数が3ヶ月連続して減少したことから、輸送についても大きく減少した。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	昨年から開始している伊勢市のプロジェクトで、2年後に「伊勢うどん」の国登録無形民俗文化財指定登録を目指している。これに向けて、2月23日に「伊勢うどんの魅力に迫る」と題してフォーラムを開催する。
一般機器	四日市	仕入れ物価の上昇分しか販売価格に転嫁できず、自動車業界の低迷長期化により稼働が停滞したり資金繰りが悪化する企業も多く見られる。そういった現状の把握ときめ細やかな支援と現在実施されている補助や助成対策の延長を希望する。コロナ対策に関して年末年始にかけて感染者増加が進んでおり、感染防止対策と経済との両立が図れるような更なる環境の整備を希望している。
サービス業	旅館	売上はある程度回復しても物価高で利益が出ない。4月からは電気料金が値上げされる情報もある。対策として省エネ診断の専門家派遣をしていただくとともに、省エネ機器導入に関する補助金、助成金等を活用して少しでも経費を押さえ込みたいので、制度ができる事を要望する。